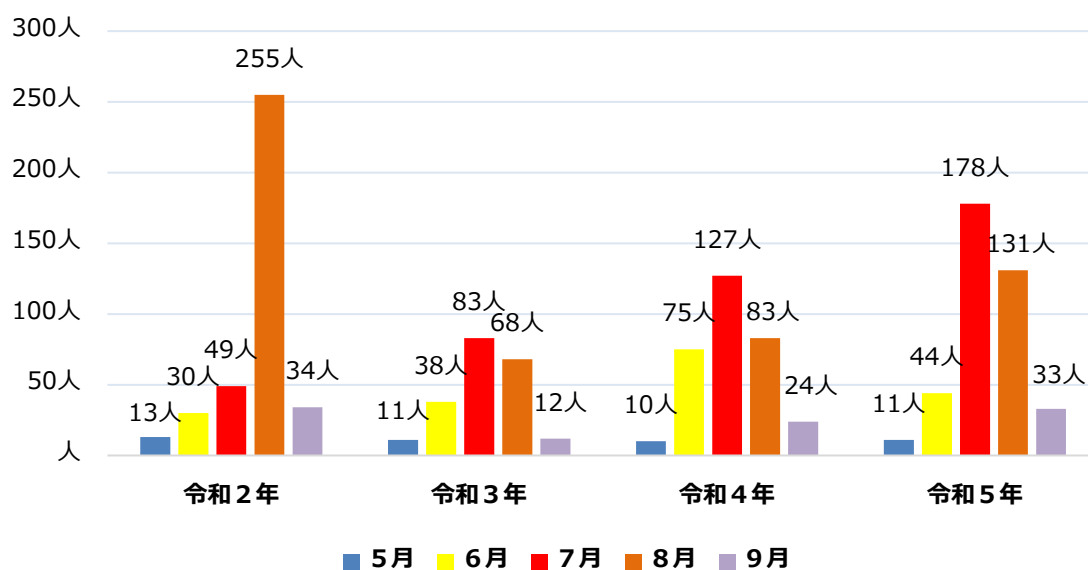


令和5年中の熱中症による救急搬送状況

枚方寝屋川消防組合の令和5年5月1日から9月30日までの熱中症（熱中症疑いを含む。）による救急搬送人員は397人（枚方市215人、寝屋川市182人）で、前年の同期間の搬送人員319人（枚方市166人、寝屋川153人）と比較して78人増加しました。

月別の熱中症による救急搬送人員（令和2年から令和5年まで）

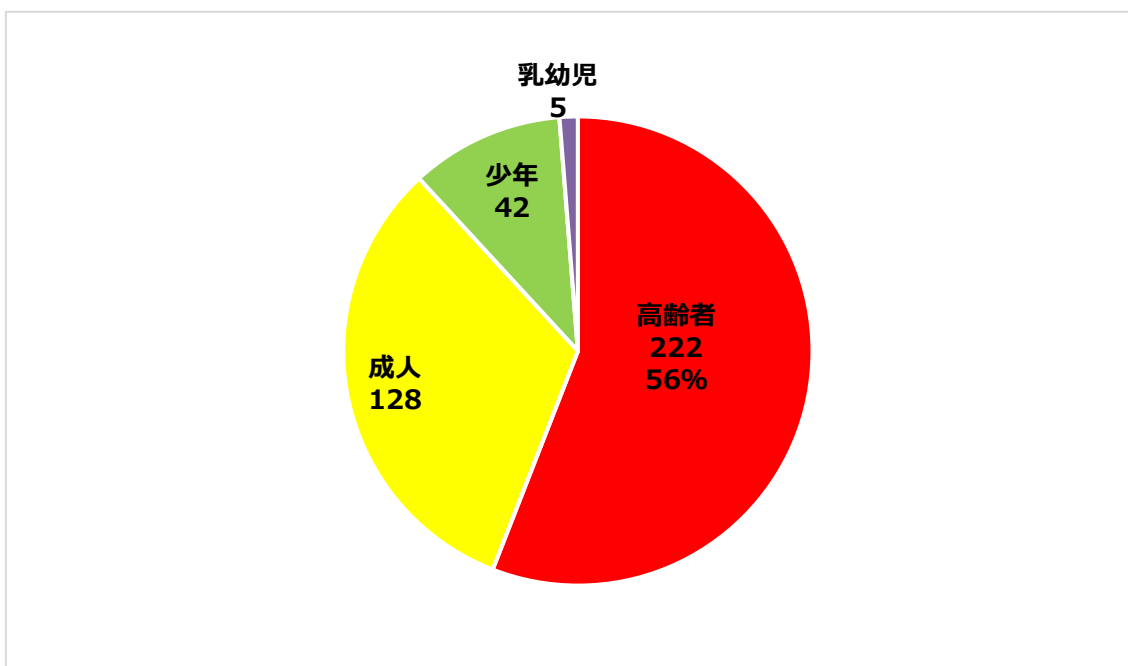
	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
5月	13人	11人	10人	11人
6月	30人	38人	75人	44人
7月	49人	83人	127人	178人
8月	255人	68人	83人	131人
9月	34人	12人	24人	33人
合計	381人	212人	319人	397人



年代別

年代別では、高齢者（65歳以上）が222人で全体の救急搬送人員の約56%を占めています。

年齢区分別救急搬送状況（令和5年5月1日から9月30日）



ポイント

- ①高齢者の方は温度に対する感覚が弱くなるため、自分で暑さやのどの渇きに気づきにくいという、体調の変化も我慢をしてしまうことがあります。周りの人が体調をこまめに気にかけて、予防対策を促してあげましょう。
- ②乳幼児は、体温調節機能が十分に発達していないため大人よりも熱中症にかかりやすいといわれていますので、より一層の熱中症予防・対策をおこなう必要があります。

部屋の
温度を確認!!



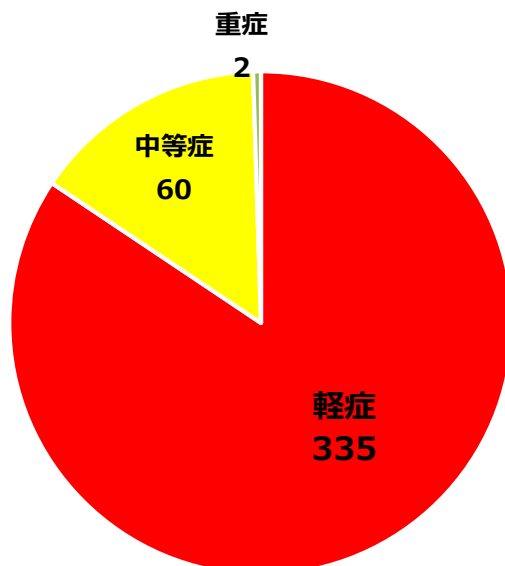
周囲の人にも気配りを



症度別

症度別では、軽症が335人で全体の救急搬送人員の約84%を占めています。次いで、入院の必要がある中等症が60人、重症が2人となっています

症度別救急搬送状況（令和5年5月1日から9月30日）



ポイント

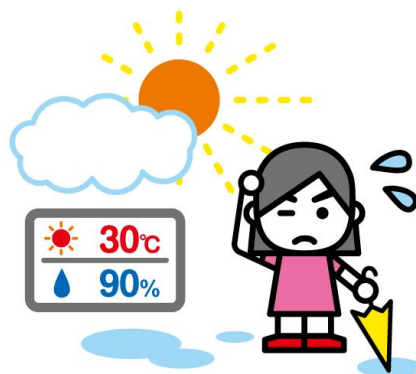
「熱中症かな？」と思うようなサインがあったときは、すぐに応急処置を行い、病院などの医療機関へ連れていきましょう。

救急車を待っているあいだにも、現場で応急処置をすることで症状の悪化を防ぐことができます。

応急処置のポイント

- ①涼しい場所へ移動しましょう
- ②衣服を脱がし、体を冷やして体温を下げましょう
- ③塩分や水分を補給しましょう

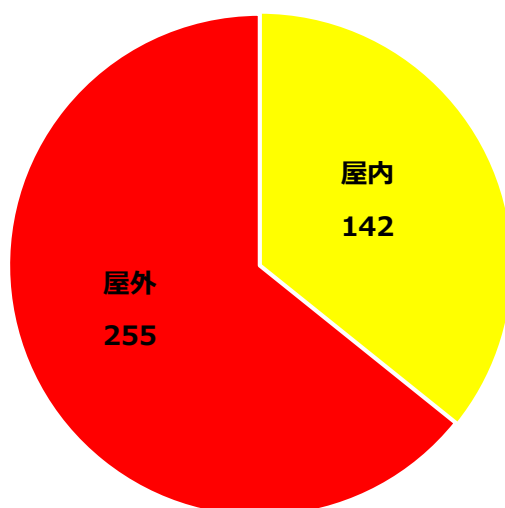
湿度が高いときは注意



発生場所別

発生場所別では、屋内が142人、屋外が255人となっています。

発生場所救急搬送状況（令和5年5月1日から9月30日）



ポイント

住居、学校など屋内で危険な環境は、「熱気や湿気が溜まりやすく、暑い場所」で、エアコンのない閉め切った部屋や風呂場、洗面所などです。

また、熱中症になりやすいタイミングについては、水分が失われやすい入浴後、閉めきった暑い場所での作業が長時間続いた場合などが挙げられます。

予防ポイント

- ① 温度計で室温を管理し適度にエアコンや扇風機を使用しましょう
- ② 風通しをよくしましょう
- ③ 喉が渇いていなくても意識的に水分を補給しましょう

